

疫学ソフト：CDC Epi Info 日本語版の紹介

総合情報学部 情報科学科 山本英二 (山本研究室)

Keywords: 疫学調査, 調査票, データ入力, データ解析, 疫学地図

1. 開発目的

疫学調査, 特に感染症・食中毒事件等のアウトブレイク調査では調査の企画実施のマネージメントが重要であるが, ここではデータの収集, 分析が伴う. この過程をITで支援するための疫学ソフトウェアが, 米国CDC (Centers for Disease Control and Prevention)

<http://www.cdc.gov/epiinfo/>の開発したEpi Infoである. 公衆衛生分野での世界標準のパブリックドメイン(公的)ソフトウェアで, 英語版以外に, フランス語, イタリア語, ポルトガル語, スペイン語版等が作成され公開されている. 日本語版への要望から国立感染症情報センター <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html> と協力して日本語版の開発・保守を行っている.



図1. Epi Info 日本語版のトップページ
ジョン・スノーによる1954年夏ロンドン・ブロードストリート周辺のコレラ症例分布を示したスポット・マップが背景に使われている



図2. Epi Info 日本語版のトップページ

2. Epi Info 日本語版の開発・保守・普及

Epi Infoは疫学調査の企画, 実施, 解析, 報告までのすべてを支援するソフトで, 調査票の作成, データ入力, データ解析, 疫学地図作成, 報告書作成が行なえる. また, チュートリアルが充実していて, 食中毒事例, 感染症事例, サーベイランス事例が学べ, 疫学研修での活用を勧めている. また世界中の国が利用出来るように各国語対応が可能なシステムを提供している. 現行オリジナル版はEpi Info 3.5.1(2008/08/13)で, 次の版で疫学地図作成に大きな変更が予定されている.

日本語化プロジェクトを筆者らで組織し, CDCのスタッフの方に協力いただき, 第2版:Epi Info 2002から日本語化に着手し, 現行日本語版はEpi Info 3.5.1日本語版(2010/04/01)である. Epi Infoの利用を勧めるため, 日本語版使用マニュアルの作成・公表, 日本事例チュートリアルの作成・公表, 毎年岡山で開催している全国自治体職員向け疫学研修会(3日コース)でEpi Infoの使用, 毎年開催される国立保健医療科学院による全国自治体職員向け疫学研修会でのEpi Infoの使用を続けている. 来春にはテキストを発刊の予定である.